

# 中古車改造、電気自動車に

あきた 経済



作業に参加した会員の車を快調に走る改造EV―秋田市八橋

## 「あきたEV研究会」県内初

県内の中古車販売会社や自動車整備会社、電子部品メーカー、県立などをつくる「あきたEV研究会」(鎌田学会長)はこの秋、中古のガソリン車を改造した電気自動車(EV)を完成させた。国が定めたガイドラインに基づき製作された改造EVとしては県内初。年末までに、公道を走るためのナンバープレートを経自動車検査協会から取得する予定だ。

## 年内に公道走行

同研究会はことし7月、秋田新電元(由利本荘市)や山崎ダイカスト(美郷町)など16社3団体が参加して発足。改造EVを開発し、普及させることで、県内の部品製造やメンテナンスなどのビジネスチャンス拡大につなげることを目指している。

改造は、主に秋田市の中古車販売会社の整備場で行

エンジンの代わりにモーターが搭載されたエンジンルーム



エネルギー効率の向上が課題となっている。鎌田会長(中古車販売・ドラグーン社長)は「本県企業の高い電子技術を生かして課題を解決し、実用車の開発につなげたい」と話している。

バッテリー費用として約60万円掛かった。

われた。タイハツの軽自動車ミラージュ(2000年式)の車体を使用。エンジンや燃料タンクなどを取り外し、出力7・5馬力の電動モーターと、13・4リットルのチウムバッテリー10個を搭載。フロントガラスの曇り止めには、会員の電子部品メーカーが作る電熱ヒーターを使用した。改造費用は約120万円、ほかに走行距離が短くなるため、エ

ッテリ費用として約60万円掛かった。家庭用コンセントで充電でき、約7時間かけてフル充電すれば約60kmの走行が可能。最高時速は80km。災害などで停電した際には蓄電池としても利用できる。ただ、エアコンは装備されておらず、同研究会は「夏冬の乗車を考えれば実用向け」とは言えないとしている。改造EVは、冷暖房を使用すると消費電力が増え走行距離が短くなるため、エ

(長田雅巳)